

読者の目

【対談】上海から2011年資源戦略を考える

レアメタル商社上海UMC有限公司 総経理 中村創一郎氏

大阪非鉄金属商工協同組合青年部会長 橋本健一郎氏(橋本アルミ取締役)

2009年5月の上海モータショーでの対談から一年8カ月。世界経済がどん底の中をさまよっていた当時から急成長を続ける中国。ようやく回復の兆しを見せ始めた現在、中国の状況・先行きはどのようなのか？また、日本はどのような資源戦略を描けばいいのか？

上海万博の現場からレアメタル商社上海UMCの中村創一郎総経理、橋本アルミの橋本健一郎取締役の両氏が2011年の資源戦略を考える。

橋本(以下H)

お久しぶりです。前回の訪中一年後から開催された上海万博。

入場者数も過去最多の7300万人と大成功のようでしたが？

中村(以下N)

そうですね、大阪万博を超え万博史上最大の規模となりましたね。

世界に与えたインパクトはかなり大きいのではないのでしょうか。

同時に、大阪万博のちの日本がアジアの盟主になったように、今後は中国にバトンタッチした、という印象を持っています。

H

たしかに相変わらず中国は元気ですね！この万博会場でも熱気がムンムン伝わってきます。

ところで上海万博に伴う工場の稼働規制が解除されると報道される一方10年は第11次5カ年計画の最終年であり目標達成のために厳しくなったとの報道もあります。がどうなのでしょう？環境のために経済成長を抑えるとは考えにくいという意見が大勢ですが？

N

いえいえ、中国は目標達成のためには手段を選ばないので、必ず実現すると思います。

(※事実、目標達成のために電力制限等も含めアルミ精錬生産量が減少した。)

H

目的のためには…というところがいかにも中国らしいですね。

では最近の中国の外交姿勢、資源姿勢についてどうお考えですか？

N

レアアースの禁輸措置を含め、中国の資源囲い込みは苛烈さを増しています。ただ中国の影に隠れて見えないのですが、オーストラリアやカナダといった国々も自国の資源を安売りしないよ

うになってきていますので、世界中で資源ナショナリズムが当たり前になっているのが実態です。

そんな中で、日本政府が資源確保のために動いていますが、我々の立場から見れば、遅すぎた感があります。また方向性も間違っています。資源確保の設備や研究を考えているみたいですが、安い時に資源を買い叩いて、3年ぐらいは困らないぐらいの在庫するのが正解だと思います。

なんだかんだいっても、資源はありますので、相場があがった際のセーフティネットがあれば、相場の大高騰という事態にはなりませんので。

レアアースも2010年初は5ドルだったランタンがいまでは70ドルを超えています。中国国内は在庫が積まれており、メーカーは困っていますよ。

H

なるほど中国というか資源戦略全般に言えることですが単なる需給では説明できず、戦略に利用される場合も多いですからね。

ところで、昨年末、2011年から始まる第12次5カ年計画草案が中国当局から発表されました。印象的だったのはGDP数値目標をはじめとする具体的数値目標がなかったこと。

いよいよ中国は急激な成長から内需拡大、富の再分配と、鄧小平の先富論(*)に入っていくと考えていますが、そうなれば中国は世界の工場から世界のマーケットへ、それに伴い工場や資源の調達先という考えから脱却し世界一の消費国と認識していく必要があります。

(※先富論(せんぷろん)とは、1985年頃から鄧小平が唱えた改革開放の基本原則を示すもの。「可能な者から先に裕福になれ。そして落伍した者を助けよ」)

事実、中国特需期待の影響でLME銅は前回の09年5月から4515ドル(セツルメント)から約2倍の9751ドル(LMEセツル 1月5日)まで急騰しました。

レアメタルはどんな状況ですか？

N

強いですね。私の専門はゲルマニウム、ガリウムですが、需要が強いわけではないのに価格は高騰しています。需要はあとからついてくると考えて、まずは相場ありき、という雰囲気になっていますね。